

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

核戦争起こすな、核兵器なくせ！
 原爆被害者援護法の制定を今すぐ！
 この願いが実ったとき、被爆者は初めて「平和の礎」として生きることができ、死者たちはようやく、安らかに眠ることができるのです。
 人類が二度とあの「あやまちをくり返さない」ためのとりでをきずくこと。——原爆から生き残った私たちにとってそれは、歴史から与えられた使命だと考えます。この使命を果たすことだけが、被爆者が次代に残すことのできるたった一つの遺産なのです。

（日本被団協「原爆被害者の基本要請」から）

ノーモア・ヒバクシャを記憶遺産に！

「いったいこの国は、ヒロシマ・ナガサキから何を学んできたのだろう」

——「あの日」から66年経った3月11日、福島原発事故に遭遇した原爆被爆者たちの心に去来した悔しさ、空しさはいかばかりだったことでしょう。

今年は、被爆者たちが「自らを救うとともに、私たちの体験をとおして人類の危機を救おうという決意」を誓い合い、日本原水爆被害者団体協議会（被団協）を結成して55年を迎えます。この半世紀を超える長い間、被爆者たちは体と心に深い傷を負い、その不安と苦しみの「生」を生きながらも、原爆は人間に何をなす続けるのかを身をもって告発してきました。核戦争の地獄の体験と、被爆者として生きねばならなかった「生」とを通じて、“核兵器は人間と共存できない”、“ふたたび被爆者をつくるな”は命をかけた叫びとなったのです。そして、原爆被害の実相を世界に広げ、核兵器廃絶を訴えてきました。

それにもかかわらず、数千発の核兵器が地球上に実戦配備され、人類は依然として核戦争の危機に脅かされています。この地球は核の汚染にさらされています。

被爆者に残された時間はわずかです。被爆者たちの「長い時間をかけた人間の経験」と志を歴史に埋没させてはなりません。

ヒロシマ・ナガサキ、ビキニを経験し、そして今、フクシマまでもひき起こしてしまった被爆国の私たちがなすべきこと——それは被爆者が遺してきた原爆被害の実相と、証言、記録、たたかい、未来へのメッセージを確かに受け継ぎ、世界中の人々が共有できる記憶遺産とし、発信しつづけることです。それこそが、〈核の犠牲となった人びと〉と〈未来を生きる人びと〉への何よりの責任の取り方ではないでしょうか。

そのために、私たちは「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」を発足させることにしました。

みなさんの会への賛同とこのとりくみへのご参加を心から呼びかけます。

呼びかけ発起人（敬称略）

安齊育郎（立命館大学名誉教授）、岩佐幹三（日本被団協代表委員）、大江健三郎（作家）、肥田舜太郎（日本被団協顧問）

呼びかけ人 114人（敬称略、肩書略、五十音順）

秋葉忠利、有原誠治、池田真規、池田香代子、浦田賢治、大石芳野、大橋巨泉、小川政亮、小山内美江子、片平洸彦、川崎哲、香山リカ、齋藤紀、早乙女勝元、佐々木猛也、瀬戸内寂聴、高橋眞司、竹本成徳、田中熙巳、谷口稜暉、坪井直、直野章子、中澤正夫、西崎文子、橋本左内、濱谷正晴、日色ともゑ、広瀬方人、ふじたあさや、舟橋喜恵、堀江ゆり、増田善信、美帆シボ、三村正弘、宮城泰年、山口仙二、湯浅一郎、吉永小百合、若林節美 ほか

郵便はがき

1020085

50円切手
 を貼って
 ください

東京都千代田区六番町15 プラザエフ6F

特定非営利活動法人

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会 行

フリガナ お名前 年齢 歳

ご住所 〒

電話

電子メール

（差支えなければ）ご職業